

特集

【2017年の私的ニュース】

2017 of the private news

結婚

T.I

2017年の私的ニュースは、「結婚」です。2017年6月に入籍しました。2017年は、結婚を機に、様々なことを経験した年でした。

・結婚式

私は、現在、京都オフィスで勤務しています(出身は山形です)。妻は、京都生まれ京都市育ち。そのため、せっかくなので、京都で結婚式を挙げることにしました。いろいろ検討した結果、平安神宮を選択。平安神宮は、平安遷都1100年を記念して、明治28年に創建されたものです。京都の長い歴史からしますと、他の寺・神社に比べて、歴史が浅いことを初めて知りました。平安神宮に限らず、京都の観光名所は、外国人観光客が非常に多いです。そんな中での結婚式。外国の方には、和装での結婚式が神秘的で珍しいものに写ったのだと思います。あんなにも妻が「ブラボー、ビューティフル」と言われることは、今後二度と無いと思われます。外国の皆さんは、お世辞が上手。

・旅行

新婚旅行でハワイに行きました。私は初ハワイでした。ハワイ島とオアフ島に滞在し、非日常の数日間を過ごしました。ハワイ島では、マウナケアで星空を観測するツアーに参加しました。そこで見た空一面に広がる星空は、素晴らしいものでした。それと同じくらい驚いたことは、星空を見る場所が、ダウンジャケットの着用が必要なくらい寒かったことです。常夏のイメージのハワイ。ダウンジャケットを着て温かいココアを飲んだことは、ある意味貴重な経験だったと思います。

また、「ハワイでは日本語が通じる」とよく目にしていました。しかし、どこに行っても、日本語で対応してもらえない。帰りの空港でその理由が判明しました。現地の人に、「これから旅行(出国)かい?」と聞かれました。どうやら、私は、ハワイの人に見られていたようです。その理由を聞いたら、「見た目がロコ」と言われました。私の髪型が、最近ハワイで流行りの髪型だったようです。次からは違う髪型でハワイに行きたいと思えます。

福岡オフィスへの赴任

にわか九州人

今年から福岡オフィスに赴任となりました。

20年ぶりに九州人になり、実家の長崎に戻る事が増えたのですが、そこで思う事は意外と九州内の移動が大変という事です。

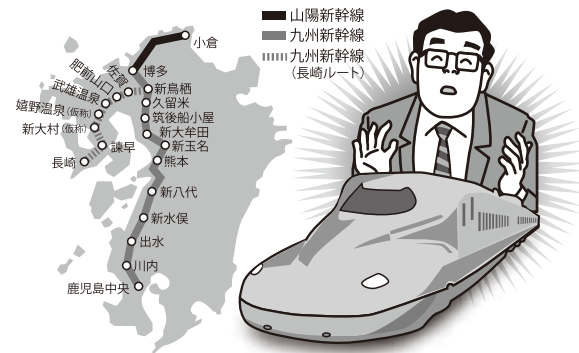
所要時間で並べると、東京から長崎まで飛行機 < 東京から名古屋まで新幹線 < 福岡から長崎まで特急となります。距離よりも、乗り物の性能が重要と思われます。

福岡から長崎までの特急電車は、走る線路が単線なので、すれ違うために駅で待つ時間がかかります。一時間に上りと下りで多い時で特急だけでも4~5本、加えて在来線を走らせるのは、かなりの名人芸と思えます。

そこで、新幹線を作る事になったのでしょうか。すれ違う電車を待つ時間が無くなり、速度も上がれば、時間は縮まると思えます。働く世代が激しく流出して人口減の地元も、少しはましになってくれると期待しています。故郷が無人領域になってしまうのは、残念です。

長崎まで新幹線で行ける頃には赴任は終わっているかもしれませんが、新幹線に乗りに来ようと思えます。

そしてこれからは、まだあまり行ってない宮崎、鹿児島にもこれから行ってみようと思えます。



【2017年の私的ニュース】

2017 of the private news

引っ越し

たまご

私の今年のニュースはずばり「引っ越し」です。一昨年、学生時代ぶりに実家を離れ(と言っても実家から徒歩5分)一人暮らしを始め悠悠自適な生活を送っていましたが、そのアパートは部屋の内装はリフォームされているものの水回りが古く、そこだけがずっとネックでした。しかし、実家に近いということも含め電車4線が使用できるという立地、夏には屋上から神宮の花火大会が見えること、そして広さと家賃のバランスになかなか新しい部屋を探す気になれずにいました。さらに、今時珍しく一階に大家さんが住んでいるアパートで、何でも多少の故障ならすぐに直してしまう頼もしい元大学教授の旦那さんと、いつもアパート内をきれいに清掃してくれている奥様のもとで、なんだか下宿しているような安心感も離れられない理由でした。

そんなある日、たまたまずっと住みたかった場所になんと条件がそろった物件が出ていて、母と犬の散歩がてら見に行きました。私は一瞬で気に入ってしまい、そこからはトントン拍子に話が進み、とうとう引っ越しを決意したのです。

引っ越しを決めた理由の一つとして大きな公園が近いことがあったのですが、お休みの日には犬を連れてぷらぷらしています。緑の多い場所が減っている中、大きな木に囲まれた公園を散歩していると肺に入ってくる空気も全然違うように感じるから不思議です。

引っ越し先は学生時代に住んでいたエリアだったこともあり、新しい土地という感覚はないものの、やはり新生活は楽しく新たな気持ちになります。引っ越してから半年以上が経ちますが、まだまだ行ってみたいお店も多く、引っ越した時の新鮮さが続いています。

お気に入りのお家には早く帰りたいもので、仕事のスピードアップにも繋がっているかも？しれません。



大曲の花火

A.N.

日本三大花火大会の1つに、秋田県大仙市で開催される「大曲の花火」があり、ご存じの方も多いと思います。「大曲の花火」は、全国から選抜された花火師たちが技術を競い合う競技大会であり、花火師たちが腕と誇りをかけて作り上げた最高峰の花火を見ることができます。毎年約80万人もの人が「大曲の花火」を見に集まるため観覧席のチケットを手に入れるのは中々困難なのですが、今年は幸運にもチケットを入手できたので、初めて大曲の花火を見に行ってきました。

今年の「大曲の花火」は波乱の幕開けでした。開催日前日まで秋田県内に降った大雨の影響により会場付近の川が氾濫し、設置されていた機材席や打ち上げに使うケーブル類が水に浸かってしまったのです。このため、当日の朝まで開催できるかどうか分からない状況でしたが、急ピッチで復旧作業が進められ、何とか予定通り開催となりました。実は、今年は、開催日の約一ヶ月前にも大雨によって川が氾濫し、会場設営に使われる木材などが流されてしまうというハプニングがありました。したがって、今年の「大曲の花火」は、二度の大雨被害を乗り越えて開催されたこととなります。大曲の花火では、打ち上げ終了後に観客と対岸に居る花火師さんたちが互いにペンライトを振って感謝を伝える「エール交換」が行われるのが恒例となっているのですが、今年のエール交換では特に大会の運営に関わった方への感謝の気持ちが強く込められているように見え、感動的だったと感じました。

なお、今年は「野村花火工業株式会社」が昨年に引き続き内閣総理大臣賞(最優秀賞)を受賞しました。「野村花火工業株式会社」は、直径約30cmの10号玉の中に6つの層が形成された「五重芯」の花火で有名で、次々と色が変わっていく様はまるでイルミネーションかCGでも見ているようでした。動画サイト等にも映像がありますので、興味がありましたらご覧になってみてください。